

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「利用者が、その人らしく安心出来る環境づくり、地域に開かれたホーム」という理念のもとに地域と共に利用者の暮らしを支えていくという事を目指している。</p>	<p>今後も地域との関係づくりを進めることにより、より良いものへと変えていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>施設理念を念頭におき介護を行っていくよう心がけている。日々の介護におけるケアプランを作成するための話し合いを行っている。</p>	<p>職員全員が理念を確認することにより、より良いホームになるように地域との関わりを持っていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族に月1回利用者の様子を文章にて伝えている。又運営推進会議ではご家族・地域の関係者・ご近所の方に参加して頂き、施設の理念を理解して頂き地域との関わりを深めている。</p>	<p>御家族に第一回の施設新聞を発行した。今後も続行していきたい。地域の方への理念の浸透に取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者と散歩することにより、近所の方への理解が広がり気軽に声をかけて頂いている。又近所の方が野菜を届けて下さったりと少しずつ交流が増えてきている。</p>	<p>今後も地域の皆様のご協力を得ながら、地域との関わり、交流の機会を増やしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>昨年までは地域の行事には不参加だったが、今年より新年会の会合へ参加をする事が出来た。</p>	<p>地域の一員として地域活動に参加する機会を増やしていく。また気軽に施設に来て頂けるように地域との交流を図っていく。</p>

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>今のところは地域に貢献出来ていないが、今後は職員会議・運営推進会議などで地域への貢献を目指したい。</p>		<p>認知症高齢者に対する理解や、住み慣れた地域での暮らしが必要という事を地域の方にも伝えていける機会を増やしていきたい。</p>
<p>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会議や勉強会の中で自己評価・外部評価・市の実施指導、監査、公開制度などについて理解を深めている。</p>		<p>今後もよりよい施設にする為に自己評価の結果を参考に話し合っ、改善に向けて取り組んでいきたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自己評価などの結果については、次回の運営会議で検討していく予定。</p>		<p>会議において意見交換を行い、サービス向上に活かしていきたい。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外では制度的な面で指導を頂いたりしている。</p>		<p>今後は施設新聞・各種行事案内等を市の関係部署へ配布を考えている。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今現在、制度を使っている利用者がある。その方を事例として職員の勉強会にて理解を深めていく。</p>		<p>この制度以外にも各種制度の理解を深め、今後の支援に活かしていきたい。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員勉強会では何回か取り上げ話し合いを行っている。今後も理解を深め職員全員で虐待が起きないように細心の注意を払っている。</p>		<p>今後、勉強会にて知識を深め家族・地域ともども防止に努めていきたい。</p>

グループホームよっころしよ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容については、ご本人・ご家族に事前に説明し不安や質問等を受け付け、その都度対応している。</p>	<p>今後も、御本人・ご家族からの相談があった時は、その都度しっかりと分かりやすく説明していけるように心がけていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者・ご家族の意見が聞けるよう意見箱を設置している。個々で管理者が本人・家族と話す場をつくり、施設改善のために意見を聞いたりしている。</p>	<p>ご利用者が気軽に悩みなどを話して頂けるような場を作っていきたい。話が出来る環境づくりに努める。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、利用者の様子を伝えている。又利用料の支払いや面会時に合わせ報告を行っている。緊急の場合は電話にて報告を行っている。</p>	<p>今後も利用者の様子を伝えていくことを継続し家族との意見交換を行っていききたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には、利用者の家族に交代で出席して頂き意見交換している。又、面会時などを利用し意見交換を行っている。</p>	<p>今後、家族からの意見・苦情などには、しっかりと対応し運営・ケアに活かしていきたい。苦情があった場合は、職員会議で話し合いサービス向上に活かしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回、全体会議・研修会を行い意見を聞くようにしている。入所する利用者を決定する際にも職員の意見を聞き、皆で話し合って決定している。</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図ることに心がけていきたい。</p>

グループホームよっこらしょ！

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の暮らしを支えられるように入浴や医療機関の受診などにあわせてローテーションを組んでいる。</p>		<p>職員の急な休みの時にいつでも対応が出来る体制となっている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者・ご家族との信頼関係を築く為にも顔なじみの職員が対応・ケアをすることを心がけている。移動がある場合でも利用者で紹介するなどしている。</p>		<p>移動や離職を必要最小限にする為職員の日頃の不満や悩みの解消に努めていきたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が研修等に参加できるように申し込み書を回覧するようにしている。研修に参加した場合には全体会議で研修内容を共有できるように勉強会を行っている。</p>		<p>外部より研修に来てもらい職員全員で学べるように機会を作っていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在はまだそのような取り組みが出来ていない。</p>		<p>同業者との交流やネットワーク作りなどの取り組みの必要性を感じ、事業所の質の向上のために努力をしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>春には懇親会を行い、ストレスの解消を図っている。手のあいている時は交代で休憩をとり、気分転換を図っている。</p>		<p>職員によって何にストレスを感じるかは違いがあるため、十分に話を聞き職員個々への対応も必要と考え、定期的に個人面談なども行っていきたい。</p>

グループホームよっこらしょ！

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、常に向上心をもって働けるように努めている。		職員が心身の健康を保ち向上心をもって働けるよう、個別職員の業務や悩みを把握するように努力していきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話のできる方には話をよく聴くことを大切に、出来ない方にはその人と向き合い不安や困っている事について把握するようにしている。		ゆっくり話を聴いたり観察する事で不安を解消して信頼関係を築いていく努力をしていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設内を案内する等してリラックスした中で話を聴けるようにしている。聴取にならないよう聴く姿勢を大事に考えている。		できれば複数回の面談の機会を持ち家族の苦労や求めている事など、ゆっくりと聴き信頼関係につなげる努力をしていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や、不安な事に対して支援の提案・相談を繰り返していく中で必要なサービスにつなげるようにしている。		「他のサービス利用」について、同業者や地域とのネットワーク作りが必要と考え、それに向けた努力をしていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望の方には、ご利用者・ご家族と一緒に来所して頂き、施設の雰囲気を見ていただく事で本人が不安なく馴染んで頂けるよう努めている。		利用者やご家族が共同生活をしていくことへの不安や悩みを聞きながら生活していけるような支援を行っていきたい。

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の状態によりサービスを提供することが大半のなか、スタッフ皆で介護する側・される側をつくらないように心がけている。利用者との会話の中で教えられたり・励まされたりすることも多い。</p>	<p>利用者との会話の中で、ご本人の昔の話などを通して会話を膨らませたり思い出話をしていきたい。回想法という援助方法を勉強し活かしていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族から頂く情報を大切に、また、こちら側からも利用者の状態をお伝えし、一方通行にならないように、心がけている。</p>	<p>月1回、ご家族宛に利用者の様子を報告し、面会時などはより細かい様子を伝えるようにしている。今後も職員同士、情報を共有しご家族に伝えられるようにしていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族との関係などを基本的情報とし、その情報を職員は共有しあい、ケアに活かせるよう努めている。</p>	<p>家族にしか出来ない事、ご協力頂きたいことをご家族のご理解のもと支援していく事が出来るようアプローチしていきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族のご希望・ご協力にて外泊・外出は可能である。</p>	<p>ご家族との面会時、ご本人より希望を伝え、家庭事情も考慮し、話し合い外出等の支援を進めていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>9名の利用者同士の関係は、それぞれ利用者同士で築いていくもので、職員はそれを十分把握していくよう心がけている。認知症のレベルによりコミュニケーションが困難な場合孤立しないよう配慮している。</p>	<p>認知症の重度化により利用者同士の関わり合い等が困難になり、一人ひとりが孤立してしまわないよう努めていきたい。</p>

グループホームよっころしょ！

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状の悪化などで医療機関に入院するため、契約終了と共に関係性がなくなっている。		契約終了と同時に関わりはなくなってしまうが、ご家族等が個別に相談にきた場合には、その都度、対応している。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得るようにしている。		一人ひとりの思い、希望意向を把握して日々の関わりの中かで活かせるよう努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査・見学・家族の面会時など関係者よりお話を聞き、センター方式を活用し、情報の把握していく。		入居後も情報を集め、様々な角度からこれまでの暮らしや人生の把握に努めていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、本人の全体像を把握するよう努めている。出来ない面より、出来ることを伸ばしていけるように全職員取り組んでいる。		利用者の全体像を職員全員の共通理解のもと変化を早く察知できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の担当者会議でケアの課題を話し合い、より良いケアを提供できるよう努めている。ICF・センター方式を取り入れている。		家族の面会時にケアプランの説明や身体的・精神的変化があった際、その都度報告し、ご家族の意見を把握していくことを全職員で徹底していく。

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家人の面会時職員が情報を確認してご家族や御本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には終了する前であっても検討見直しを行っている。		その他、月1回全体会議を持ち、一人ひとりの問題点など話し合っ、状況に応じたきめ細かくプランを見直している。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護・看護記録を作成し全職員が情報を共有するとともに変化があった場合、随時カンファレンスを開いていき、介護計画の見直しを行っていく。		今後も全職員が情報把握・共有し利用者本位の介護計画の作成とケアを実施していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者には看護師が中心となり医療連携体制を整えており、看取りも行っている。通院や送迎等必要な支援は行っている。		今後も継続して行っ、いき連携体制を強化していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	半年に1回運営推進会議を行っており、民生委員、警察の方にも入っ、頂いて協力して頂いている。		地域の方との関わりを深めていきたい。継続的・日常的にご協力頂けるボランティアの方を募っ、いきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者の意向により、他のサービスを利用することができるが、現在は利用していない。		今後、ショートステイやデイサービスの適用になった時に職員会議等で検討していきたい。

グループホームよっこらしょ！

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとの協働に至っていない。</p>		<p>今後、事業所のみでは解決が困難な状況等に地域包括支援センターと連携し解決できるよう関係性をとっていきたい。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に今までの医療機関への継続の希望がある場合は受診へ連れて行く。また、利用者の一般状況に合わせて総合病院へ受診する(家族の許可を経て)。入居時に協力医療機関として説明をしている。</p>		<p>今後も利用者やご家族と話し合いを持ちながら、適切な対応ができるよう努めていきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>現在、主治医は内科医ですが、必要に応じて専門医療機関へつなげている。</p>		<p>今後も、主治医やご家族と相談しながら必要に応じて専門医へ受診し治療を行えるようにしていきたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>常勤の看護師を1名確保し医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬管理、医療機関との連絡体制を整えている。また、職員の医療、健康管理、緊急時の判断力の向上につなげている。</p>		<p>常に利用者の一般状態を把握していき、異常があれば看護師と連携し、医療機関へつなげられるようにしていきたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の場合には、総合病院の病棟看護師(担当者)と、利用者の情報提供及び交換を行っている。また、退院後の生活の準備を整え、当施設への生活が継続できるよう支援している。</p>		<p>今後も医療機関の看護師等と連絡を密にして、心身状態の把握に努め、継続的な支援を行っていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りケアカンファレンス及び同意書、医師確認書等を記入し、早い段階から家族に説明し、医師からも説明を受ける。また、看取りケアを行う際、医師、ご家族と職員でカンファレンスを行う。契約時、延命治療は行わず看取りを行う説明する。</p>		<p>今後、看取りケアに関する勉強会を行い知識を深めていきたい。看取りケアを行う際は、ご家族と話し合いを持ち利用者に対して一番良い形で終末を迎えられるよう対応していきたい。</p>

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後、看護師が中心となり、ターミナルに関する知識・技術等を深めていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなど、リロケーションダメージを最小限に食い止めるよう努めている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>職員は利用者で過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選びやすい場面をつくるようにしている。</p>

グループホームよっころしょ！

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。</p>		<p>職員が利用者に合わせていく様、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援ができるよう取組んでいきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人主体で身だしなみを整えられるよう職員はお膳立てをしたり、不十分なところや乱れをさりげなく直している。本人の好みや意向を大切にしている。</p>		<p>職員各々の個性を反映し、自由な装いで利用者 と過ごすよう心がけている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている。旬の食材や新鮮なものを採り入れ喜んで食べてもらっている。</p>		<p>職員が交代で付き添い外出に出かけ食事を楽しんでいる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>病気などで制限がある場合を除き、個々の嗜好を大切にしている。日常的に飲酒、喫煙される方はいない。行事の際など、お酒を楽しんで頂けるようにしている。</p>		<p>事業所側が提供する機会を作らないからと嗜好品辞めてしまうのではなく月1回のペースで日常生活に採り入れていきたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援している。安易にオムツ類の使用にならないように最善の方法を常にカンファレンスしている。</p>		<p>トイレでの排泄を基本とし、本人の生活リズムに沿った援助をしていきたい。</p>

グループホームよっこらしょ！

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望に沿った入浴が出来るよう健康状態や事故防止に気をつけながら、できるだけゆっくり入浴出来るように見守る。		スムーズな入浴、体調の改善など本人の力の発揮等へつながる、個別にあった入浴支援を行っていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを作り、一人ひとりの体調や希望に考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援する。また、寝つけない、不安な気持ちがある時には話をしたり添い寝をしたりする。		たくさんの選択肢の中から、本人の状況と気持ちを尊重したケアをしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ることを見出し、お願い出来るような仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。		散歩や外食会などにより、外に出る機会を多く持ち、気晴らしや行動範囲を広げていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事業所が管理している。近所にお店がなく、日々金銭を使う環境にない。		できる限り、お金にふれる機会を持つようにしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の体調や気分によって、近所への散歩や車で外食に出かけている。時期によっては、車で公園に出かけ季節を肌で感じてもらい軽くお茶などを飲み外出している。		外出だけでなく、地域の方たちとふれあう機会を増やしていきたい。

グループホームよっこらしょ！

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を作り、四季折々に様々なところへ出かけていく。外食は、利用者の状況に合わせてグループごとに出かけるようにしている。		希望に合わせた支援を行えるようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける事、手紙を書く事は不可能である。ご家族や知人からの電話、手紙は歓迎している。		ご本人が電話をしたり、手紙を書く事はできないが、職員が変わりに伝えている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や面会人などの制限はない。気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。		家族以外にも、それまでの関係や交流が継続できるように支援していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを、職員全員で認識している。		今後も身体拘束しないように努め、拘束しないケアを職員全員で話し合っていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		利用者の意向を考慮しながら外出の機会を増やしていく。

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で見守っている。夜間は、1時間ごとに利用者の様子を確認すると共に、起きられた時にすぐに対応できるように見守っている。		重度化が進む中で、より難しくなっているのだが、職員の意識と様々な工夫により安全を確保していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況を見て厳重に保管すべきもの、薬など保管管理が必要なもの、利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している。		保管場所には鍵がかかる場所を選び、常に利用者の目の届かないように出し入れは職員全員が注意し行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員会議で一人ひとりの状態から予測される危険を検討し事故防止に努めている。ヒヤリハットの記録を作成し、万一事故が発生した場合には事故報告書を作成し事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明を行っている。		利用者の状況、状態を把握し、ケアカンファレンスにて話し合い事故防止に努めていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の応急手当の勉強会(実技)を実施している。緊急時の職員応援体制なども整備してある。		救急手当や蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応できるようにしていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力体制については、自治会でもお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。		避難訓練・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っていきたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームでのその人らしい生活と、それに伴うリスクについては入居前から家族等に説明を行い理解を得ていると共に、状況の変化に応じてその都度説明と理解を得ている。		今後も、こまめに御家族と話す機会を持っていきたい。

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>利用者の異変に気づけるよう様子観察し記録と申し送りを行う事で全職員が情報の共有を行っている。定期の病院受診や緊急時には看護師の指示のもと、それに伴う対応を職員の共通理解のもと行っている。</p>	<p>日頃の様子や異変に対し、こと細かに詳細を記録していく事を徹底していく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬内容は看護ファイルにまとめてあり、いつでも全職員が確認することができる。常薬や薬の追加等は看護師より振り分けられ、誤薬のないように服薬している。</p>	<p>誤薬防止に努めていきたい。内服の際は、記録に残し服用後の様子に変化があった場合にも記録に残し報告をしている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎日、排便の有無の確認をし本人の排便コントロールの状況に合わせて下剤の服用あり。食事の摂取量と水分摂取量の観察をしている。</p>	<p>下剤服用時は、しっかり水分を取ってもらうようにする。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。本人のレベル低下により全介助や半介助しており夕食後には義歯を洗浄剤でつけておくようにしている。</p>	<p>今後も毎食後に口腔ケアを徹底していくと共に義歯の管理・口腔内の観察をしていく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時の食事の摂取量の確認と記録、食べ方の変化の記録と情報の共有、食事形態の工夫、毎食・おやつ時の各々の水分摂取量の確認と記録を行っている。</p>	<p>今後も継続していきながら利用者の状態に合わせた食事の提供と、排便・排尿コントロールを絡めた援助をしていきたい。</p>

グループホームよっこらしょ！

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会において看護師より感染症についての知識等の説明を行い、職員全員が感染症の知識等を学んでいる。		勉強会での内容を記録に残し、いつでも確認ができるようにしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生肉・魚は冷凍にて保存している。食材の消費期限内に調理を行っている。使用した食器は洗浄後に乾燥機にかけている。布巾・雑巾は1日1回は漂白剤にて消毒を行っている。		定期的に冷蔵庫内の掃除をし、衛生に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	戸口の外にはウッドデッキ風となっており、屋根も大きくなっている。車椅子で出て田んぼを眺めながら話しをしたり、スロープになっているので車椅子のまま外出が容易である。		訪ねて下さる人や、地域の方に親しみを持ってもらえるように工夫をしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールがカウンターのみで仕切られているので調理をしている姿が見えたり匂いを感じることができる。		利用者にとっての居心地の良さに注意しながら季節を感じられるような工夫をしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーがあり、小さな座卓がある。冬場はコタツが置かれる。		ホールでの座る椅子の場所には、利用者同士の関係にも配慮している。

グループホームよっこらしょ！

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居に際しては、利用者の使い慣れた馴染みのあるものを持ってきてもらうように話しをしている。布団に関してはご本人の物を持ち込んでもらっている。</p>		<p>家族の協力を得ながら、その人らしい安心できる居室となるように配慮していきたい。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>朝の掃除の時は、全ての窓を開けて換気を行っている。冷房に頼り過ぎず窓を開け風を通すなどの工夫もしている。</p>		<p>利用者の様子に注意し、過ごしやすく、こまめに調節をしていきたい。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーとなっているので、車椅子の利用者の介助も安心して行うことができる。</p>		<p>利用者一人ひとりのレベルに合わせた工夫を考慮していきたい。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各居室には、花の名前がついており入り口にはプレートがはってある。</p>		<p>認知症の高齢者には、ただ表示するのではなく利用者一人ひとりの理解力も把握しながら分かりやすい工夫をしていきたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>戸口の外のウッドデッキに車椅子で出て、外の空気や景色を楽しめるようにしている。近所の田んぼ道を車椅子にて散歩している。</p>		<p>季節を感じるできるように外の空気に触れる機会を増やしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームよっころしょ！

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

静かな環境の中で、理念の中の「その人らしさ」、「一人ひとりの可能性を見出す」という事を踏まえて、一人ひとりを十分理解し、その人に合わせたケアを行っています。利用者が生き活きと生活ができるように日々話し合いを持ち支援に力をいれていきたいと思っています。ご家族や、地域の関係者と連携を図りながら、より良いグループホームになるよう意見交換をしていきたいと考えています。また、地域との交流の機会を増やし、気軽に立ち寄り利用者と会話ができる施設造りを行っていきたいと思っています。